

製品名: GPR105 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11622**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	P2RY14
別名	P2RY14; GPR105; KIAA0001; P2Y purinoceptor 14; P2Y14; G-protein coupled receptor 105; UDP-glucose receptor
遺伝子 ID	9934.0
SwissProt ID	Q15391
免疫原	抗血清はヒト GPR105 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 146-195

背景

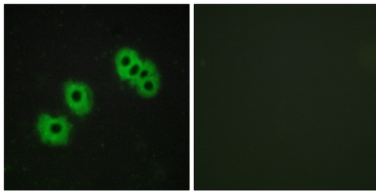
この遺伝子産物は G タンパク質共役受容体ファミリーに属し、様々なアデノシンおよびウリジンヌクレオチドに対して異なる薬理学

的選択性を示す複数の受容体サブタイプが含まれています。この受容体は、G タンパク質に共役した UDP-グルコースおよびその他の UDP-糖に対する P2Y プリン受容体です。幹細胞コンパートメントの調節に関与することで、P2Y 受容体の既知の免疫系機能を拡張する役割が示唆されており、神経免疫機能にも関与している可能性があります。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: G タンパク質に共役した UDP-グルコースおよびその他の UDP-糖に対する受容体。ATP、ADP、UTP、ATP によって活性化されません。類似性:G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。組織特異性:胎盤、脂肪組織、胃、腸で最も高く発現し、脳、脾臓、肺、心臓で中程度、腎臓で最低レベルです。、

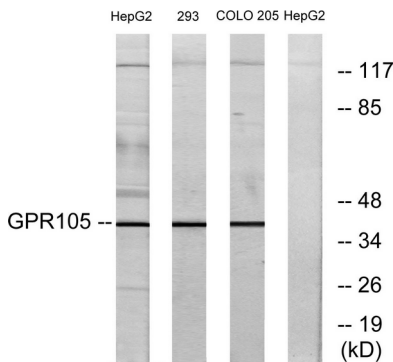
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

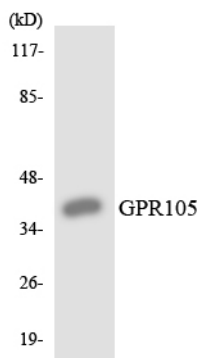
画像データ



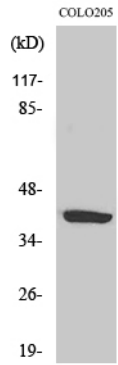
GPR105 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



GPR105 抗体を用いた 293 細胞、COLO205 細胞、HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



GPR105 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



GPR105 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析